

平成21年度 麻生区協働推進事業評価一覧表

No.	新規・継続	事業名	予算額(円)	決算額(円)	所管課	事業目的及び内容	事業報告	実施主体・委託先	総合評価	今後の方向性
1 安全で快適に暮らすまちづくり事業										
1	継続	麻生区安全・安心まちづくり	990,000	989,043	地域振興課	麻生区民、地域団体、事業者、行政機関等との連絡と協働により、区民が安全で安心して暮らせるまちづくりを進めることを目的とし、次の事業を行う。①地域安全パトロールの実施及び推進に伴う実施組織への物品貸与、②安全・安心まちづくり旬間中の街頭啓発活動及び啓発物品の購入、③地域安全パトロール実施団体間の意見交換会、④青色回転灯付パトロール車によるパトロールの実施及び導入の推進	地域安全パトロール実施組織に対し、パトロール用品（帽子、腕章、ベスト）を貸与した。組織によるパトロールは年々増加しており、区民防犯意識の高揚に成果を上げている。	麻生区安全・安心まちづくり協議会	行政単独ではカバーしきれない地域活動の実施及び活性化を推進するにあたり、本事業の協議会の役割がさらに重要になっている。また、多様化する犯罪に対し、緊急対応が可能な組織体系が構築されていることから、事業に対する成果は得られており、今後も支援していくことが必要である。	現在、行政内において防犯業務を行っている部署が複数あり、連携が取れているとは言いがたい状況にある。また、犯罪予防にあたっては、情報の共有化と地域住民意識の向上が必要であることから、今後は組織の見直し、地域との連携強化、新たな研修会・講習会の開催等を展開していく。
2	継続	あさおガイドマップ増刷改訂事業	961,000	724,500	地域振興課	「麻生区ガイドマップ」の掲載情報を最新の情報に改訂し、人口増を考慮して増刷するとともに、転入してきた区民を中心に区役所窓口等で無料配布する。併せて、区ホームページの地図データを更新する。	増刷した15,000部は、1年間ですべて在庫が無くなる状態であり、適正な部数が発行できている。また、区民から役に立つとの声があり好評である。	地域振興課(株)ゼンリン横浜支店	区民にとって役立つ情報を提供できている。	区民から生活に役立つとの声があり好評のため、次年度以降も同様に発行する。
3	新規	落書き消し事業	370,000	319,962	地域振興課	新百合ヶ丘駅周辺並びに百合ヶ丘駅及び柿生駅周辺等を中心とした落書き消しを実施し、駅周辺の美化と犯罪防止を目指す。また、町会・地区の要請による「出前落書き消し」を実施して落書き消しのノウハウを伝え、区内の美化と安全で安心なまちづくりを推進していく。	一斉落書き消しを実施し、開催地域の地元町会に落書き消しのノウハウを伝えることができた。また、地域の中学校と共同で作業を実施することで、中学生の地域貢献活動にも協力できた。	あさお落書き消し隊	市民活動団体が主体となり活動を行うことで、機動的に落書きを消すことができることと、地域と市民活動団体が協働することで、都市型コミュニティの形成にも寄与している。	市民活動団体の主体的な取組に留意しながら、本事業を通じて住民間の交流が発展するよう支援する。

2 幸せな暮らしをともに支えるまちづくり事業

1	継続	第20回あさお福祉まつり	2,900,000	2,900,000	地域保健福祉課	区内で地域福祉活動に携わる当事者・ボランティア・施設などの活動を広く区民に周知するとともに、体験学習などを通じて、より具体的に福祉についての理解と関心を深めることを目的としている。また、普段の活動では交流することが少ない参加団体にとって、年に一度、区内の他団体及び市民と交流できる貴重な場である。	多数の区民が参加し、福祉に触れる場としての機能を果たしている。福祉関係団体、グループ等の参加は年々増加し、福祉関係団体の貴重な交流の場にもなっている。	麻生区社会福祉協議会	福祉制度や環境の変化、「地域のことは地域で」という流れの中で、区民と地域福祉を結びつける機会を与える貴重な場となっている。	より多くの団体が参加できるように事業実施スペースを拡張する。また、福祉に関心を持つ学生など、より多くの年代に対し働きかけを行い、福祉のまちづくりを推進する象徴的な事業になるよう改善、見直しを図りたい。
2	継続	ウォーキングマップ活用健康づくり推進事業	1,918,000	1,875,236	地域保健福祉課	歩行習慣のない区民を対象に、より身近な地域でウォーキングが開始できるよう支援し、広くウォーキングの普及を図ることによって、生活習慣病の予防及び介護予防を図る。①体験ウォークの企画・実施、②公園de健康づくり事業の企画・実施、③ウォーキングマップPR用ポスター作成に向けた討議・作業	体験ウォークでは、毎回参加者が定員の8割を超え、初参加も3割以上あり多くの人にアプローチできた。また、公園の定例ウォーキングでは、ウォーキングの習慣化、閉じこもり予防にもつながった。平成21年12月に完成したウォーキングマップをPRするため、ポスターを各関係機関に提示したところ、問い合わせ等の反応がありマップの普及につながった。	麻生区ウォーキング推進実行委員会	ほぼ計画通りに事業を展開することができた。	今後も区民の健康づくりを推進するウォーキングを普及するために、どのようなことが必要かを検討し、今までの活動を検証するとともに、ボランティアの育成やウォーキングマップを活用したウォーキング教室の開催など、区民と協働してより効率的な事業執行を目指していく。
3	継続	小地域のつながりネット支援事業	1,416,000	1,376,141	地域保健福祉課	第2期あさお福祉計画の実施に伴い、区民による自助、共助の取組を支援する。世代や従来の活動領域を超えたつながりづくりを進め、人と人とのネットワークにより、身近な生活課題を解決することを目的とする。①区内の保健福祉6エリアごとに開催する「地域懇談会」、②公募による地域福祉活動の委託	地域懇談会は、地域の生活課題を整理し課題解決の取組について意見交換を行った。また、懇談会の内容をまとめて住民にフィードバックしていく。公募による委託の成果は次のとおりである。 ①地域における移送サービスの仕組みづくりの検討・ガイドブックの作成、②中高年の男性の食のボランティアの育成、③誰でも参加できる器楽合奏の場づくりによる地域住民の交流の活性化、④障害者の地域活動支援センターを拠点とした地域懇談会の開催による地域のつながりづくり、⑤障害者施設・事業所へのミニバスツアー実施による市民と障害者の交流、⑥ポピュラーミュージックフェスティバルへの自主参加・運営による青少年の居場所づくり	地域保健福祉課	行政が場づくりを行う「地域懇談会」と「公募による地域福祉活動の委託」は、いずれも住民同士、住民と団体、団体同士の横のつながりを推進するものであり、新しい共助の取組である。	地域福祉の推進を図るために、小地域のつながりに関する取組は重要である。委託を終えたものは、区民主体の取組として継続発展するよう、側面的な支援を継続する必要がある。地域懇談会はその結果を活かして、今後は社会福祉協議会と充分連携をとりながら、地域福祉のネットワークづくりに取り組む。

3 人を育て心を育むまちづくり事業

1	継続	子育て支援・企画事業	4,733,000	3,027,949(合計)	こども支援室	以下のとおり	以下のとおり	—	以下のとおり	以下のとおり
1-1	継続	こども相談窓口運営維持管理事業		66,675	こども支援室	(目的) 子どもに関わる様々な相談の問題解決のため、関係機関や庁内の関係部署との連携や調整を行う。また、相談対応の研修を実施しスキルアップをすることで、区民の相談により的確に対応できるようにする。 (内容) 子どもに関わる相談にこども教育相談員、家庭相談員、保健師が対応する。母子手帳配布時や乳幼児の相談を保健師、家庭相談員が受け、児童・家庭支援係や必要に応じて障害者支援係・保護課及び児童相談所・療育センター等の関係機関と連携し対応する。小・中・高等学校の子ども相談はこども教育相談員、保健師が対応し、必要に応じて庁内の関係部署、教育委員会、小中学校、児童相談所等関係機関とケースカンファレンスを実施し、問題解決に向けて連携や調整を行う。多頻度相談保護者や発達障害への対応の研修を実施し、問題の理解や対応を学び相談に活かしていく。	支援が必要な子どもの相談に対し、継続して状況を把握しながら対応するネットワークができ、こども支援室が核となって調整ができた。	こども支援室	相談に対して各関係機関と連携してケースカンファレンスを行う事で的確な分析をし、それぞれの機関の役割や問題点の共有ができた。また、問題の解決に向けてのネットワークが強化されてきた。	虐待や支援が必要な困難事例の子ども相談に対し、関係機関との連携や調整をさらに強化していく。
1-2	継続	麻生区子ども関連ネットワーク会議		295,000	こども支援室	(目的) 麻生区における子どもに関連する機関、団体やグループの連携を図るとともに、子育てや子どもの健全育成を地域全体で支援する。 (内容) 子どもに関連する機関等との情報交換、ネットワーク化に向けての協議を行う。	各機関、団体等の現状や課題を共有できた。その中で子どもたちが地域の中で人との関わりを持ちながら安全に遊べるために、作業部会を設置して学童期の学びのための「みんなのちず」を配布し効果を検証した。また、研修企画部会で関係機関・団体等の子育て支援に関する研修や情報交換を行い、ネットワークを強化することができた。さらに、情報部会で麻生区子育てガイドブック「きゅっとハグあさお」を協働で作成して母子手帳交付時や転入者へ配布し、子育て支援の情報発信ができた。	こども支援室	ネットワークを構築していくためには、現状と課題を共有して課題解決に向けての方向性を示し、実践していくための活動が必要である。「みんなのちず」作業部会・研修企画部会・情報部会を通して、ネットワークを強化し地域に発信できる活動ができた。	地域の課題について会議や委員を通して把握し、具体的に活動できる基盤ができた。今後も引き続き作業部会を設置して課題に向けて協議し、地域に発信できるものを作成していく。研修企画部会も継続してネットワーク強化をはかる。次年度は子育て情報の発信として麻生区の子育てサークル紹介紙の作成を行う。
1-3	新規	麻生区子育て関連情報誌作成事業		948,474	こども支援室	(目的) 麻生区の子育て支援を目的として、子育てに関連する情報を整備して積極的に発信に努める。各施設で行っている子育て支援など多様な情報を一元的に提供し、子育て当事者の利便性を図るとともに、育児の孤立化や育児不安の軽減を図る。 (内容) 麻生区の子ども・子育てに関係する部署・機関及び団体等の集合体である「子ども関連ネットワーク会議」を基盤に情報部会を立ち上げ、子育て中の保護者や子育て支援に関わる人と共に情報誌を作成する。	広報や口コミで情報誌を知り窓口に来所する人も多く、ニーズは高い。妊産婦からは「今必要な情報が掲載されていてよかった。すみからすみまで読んだ。」という感想や、子育てに関わる団体等からも「自分たちが知らなかった情報まで載っていて、大変ためになった。」という意見もあった。	こども支援室	子育て中の人や子育ての支援者を中心とした情報部会で情報誌を作成したことで、情報が必要とする人たちの声を生かすことができた。それぞれが知らなかった情報も、情報誌作成を通して共有することができた。	情報誌が欲しいというニーズが高く希望者も多いため、必要に応じて増刷を行う。また、情報の更新や追加が必要になってくると思われるため、3年後を目途に改定を行う。
1-4	継続	麻生区子育て人材バンク事業		840,000	こども支援室	(目的) 区内には子育て支援に関する資格や特技を有する人が多数いるため、こうした人材を活用し、区内の子育てグループ等の支援を行い、地域の子育てを地域全体で支援することを目的とする。 (内容) 子育ての支援を行う者(子育てボランティア)と支援を受ける者(子育てグループ)が子育て人材バンクに登録し、子育てグループから派遣の依頼を受けて、子育て人材バンク事務局が条件に合致する子育てボランティアを派遣し、子育てグループの活動の支援を行う。	ボランティア23人(新規登録3人)、利用グループ31団体(新規登録4団体)の登録があった。派遣回数は102回、派遣人数は196人(平成22年3月現在)。ボランティア登録時に委託先と共に面接を実施したことで、ボランティア個人の特性や活動実績が具体的に把握でき、利用者のニーズにあった派遣ができた。また、委託先と面接に同席することで、委託先の考えや対応が把握でき、ボランティアと共に子育て支援について考えることができた。本事業のPRを市政だよりに掲載したことで新規の増加にもつながった。利用グループからは、ニーズにあった人材の派遣がされたことで活動の充実につながっているとの意見があった。	こども支援室 特定非営利活動法人川崎児童健全育成会コンコロ	本事業が認知されつつあり、ボランティアの登録者数、利用する子育てグループの登録者数が増加し、年々事業が進展している。利用者からも大変好評を得ており、麻生区の地域の子育て支援活動において重要な役割を果たしている。	今後、本事業を区の地域の子育て支援の場としてさらに発展させていくためにも、ボランティアの登録数を充実させること、利用者のニーズを把握することは重要であり、委託先との調整を十分に行い、子育て支援の強化につなげていく。
1-5	新規	こども支援室リーフレット作成事業		88,200	こども支援室	麻生区こども支援室が行う業務や子どもに関する情報発信、子どもに関わる相談等の業務を広く区民に周知するため、麻生区役所こども支援室業務リーフレットを作成する。	リーフレット作成前は、こども支援室の業務について区民はもとより行政機関でも分かりにくい状況であったが、リーフレットを用いて周知することで、こども支援室の役割が理解されるようになってきた。	こども支援室(株)大和	リーフレット作成前は、こども支援室の業務について区民はもとより行政機関でも分かりにくい状況であったが、リーフレットを用いて周知することで、こども支援室の役割が理解されるようになってきた。区役所の子ども・子育て支援の総合拠点としての役割を果たすために、継続的な周知活動を行うことが必要である。	区役所の子ども・子育て支援の総合拠点としての役割を果たすために、継続的な周知活動を行うことが必要である。

No.	新規・継続	事業名	予算額(円)	決算額(円)	所管課	事業目的及び内容	事業報告	実施主体・委託先	総合評価	今後の方向性
1-6	新規	学童期の遊び・学びのためのマップ作成		789,600	こども支援室	(目的) 麻生区内の学童期の子どもたちが、人との関わりを持ちながら安全で安心して遊び、学べる身近な場所を利用するために、さらに、子どもたちが地域で楽しく生活し、健全に育つよう地域の情報を掲載したマップを作成し、活用を図る。 (内容) マップの表側は、麻生区の地図に公共機関、施設、公園、バス路線などを掲載し、自分たちで自由に書き込める白地図にする。裏側は遊ぶときの安全への配慮、ルールをメッセージの形で掲載する。また、A3版の両面カラーで作成する。	小学校区のエリアごとに「みんなのちず」として作成し、16小学校の児童に配布した。	こども支援室	子どもたち自身からアンケートをとり、遊び関係や地域との関わりを知ることができた。自分で作り上げる自分だけのオリジナル地図にすることで、子供同士、親とのコミュニケーションを深め、地域を知ることにつながる。	作業部会を継続し、子どもたちの活用状況の検証を行い、さらに使いやすいもの、教育の中でも活用できるものにしていく。
2	継続	こども関連大学連携事業	1,555,000	1,296,637 (合計)	こども支援室		以下のとおり	—	以下のとおり	以下のとおり
2-1	継続	麻生区マタニティコンサート事業		298,300	こども支援室	(目的) 出産を控えた妊婦のリラクゼーションを図ることを目的とし、昭和音楽大学の卒業生を中心とした演奏家のコンサート及び保健福祉センターの助産師による妊娠中の生活のワンポイントアドバイスを行い、妊娠中からの子育て支援の一環とする。 (内容) 昭和音楽大学の卒業生を中心とした演奏家の派遣を行う(株)プレルーディオに依頼してコンサートを実施する。また、助産師によるワンポイントアドバイス、麻生図書館による絵本の紹介、子どもの保育を保育ボランティアに依頼して実施する。	7月の歌とピアノは40人、12月のハーブによるコンサートは100人の参加があった。プロの演奏によりリラックスでき、胎児も良く動き反応が良かった。出産後の子育てのイメージもでき、地域の資源を活用できるよう周知もできた。	こども支援室	妊娠中や子育て中は手軽に参加できるコンサートが身近にないため好評であった。また、コンサートだけでなく、地域の子育て支援の周知ができた効果的であった。	音楽を通しての子育て支援は継続していきたい。
2-2	継続	麻生区子どもと一緒にのコンサート事業		316,880	こども支援室	(目的) 就学前の親子が身近な場所で気軽にコンサートに行くことができ、良質な音楽に触れ、楽しみ、リラックスした機会を持つことで、子どもの健全な発達、発育につながり、子育て支援の一環となる。 (内容) 未就学児がコンサートの対象から除かれることが多いため、保護者からのニーズが高い未就学児を対象としたコンサートを実施する。演奏にあたっては、昭和音楽大学の卒業生を中心とした演奏家の派遣を行う(株)プレルーディオに依頼し、昭和音楽大学北校舎ユリホールにて実施した。	親子がリラックスしながら一緒に出演者の歌や音楽に触れ、手遊びをすることで、子どもの健全な発達、発育につながる事ができた。	こども支援室	子育て中は手軽に参加できるコンサートが身近にないため、大変好評であった。	平成21年度は昭和音楽大学との連携による事業であったが、今後は昭和音楽大学に加え、様々な地域の資源を活用して内容の充実を図りたい。
2-3	継続	小学校・昭和音楽大学交流コンサート事業		150,000	こども支援室	(目的) 昭和音楽大学の大学院生が区内の小中学校に出向き、コンサートや歌唱指導、器楽指導を行うことで、小学生に良質な音楽に触れる機会を提供する。さらに、大学生や大学院生と音楽を通じた交流を行うことで、次世代の育成を図り、地域社会づくりに資する。 (内容) 区内の小中学校(6校)で大学生等による楽器演奏や歌唱指導等を実施する。	南百合丘小・片平小は4年生を対象に木管五重奏、真福寺小・柿生小は全校生徒対象に金管五重奏の演奏、王禅寺中央小・百合丘小は5・6年生を対象に声楽四重奏と合唱指導を行った。大学生等による生演奏や歌を聞いたり、大学生等と児童が触れ合うことで、お互いの教育的効果があった。また、麻生区が芸術のまちとして地域づくりを展開させていくことの周知もなった。	こども支援室	麻生区の地域の子どもの健全育成のために、良質な音楽に触れることは有効だった。	昭和音楽大学においても20年度から学生の単位取得として位置づけられた。次年度は交流コンサートに区民も参加し、鑑賞や交流することでさらに地域に根ざした事業に発展すると考えられる。
2-4	新規	地域にある鶴見川流域を活かした子育て支援事業		531,457	こども支援室	(目的) 小学校の総合学習で児童が実際に川に入り魚を取るなどの流域学習を体験することで、生物の生態学習や川の流れの学習、川の防災機能の学習などにつながる。また、自然や防災などの避けては通れない問題に目を向かせるとともに、次世代の育成を目指す。 (内容) 和光大学との大学連携や地域にある鶴見川、NPO法人等の地域資源を活かした地域連携事業として、区内小学校2校(岡上小・東柿生小)でそれぞれ2回、計4回の流域学習を実施する。	岡上小学校と東柿生小学校の4年生でそれぞれ2回、計4回の流域学習を実施した。事業には、和光大学の教授や学生、地域の岡上こども文化センター館長(NPO法人かわさきコッコロ主催)が積極的に参加した。事業者の危機管理により事故や怪我もなく、無事に事業を行うことができた。また、本事業の学習発表会や和光大学で実施された夢討論会においては、岡上小学校児童による流域学習の発表が行われ、地域や大学との連携も十分図ることができた。	こども支援室 特定非営利活動法人 鶴見川流域ネットワーク	本事業の実施にあたり、当初は実施校の教員も不安な要素があったが、実施後の学習発表会や夢討論会では、児童や教員、大学等事業関係者も積極的に発表会に参加するなど好評であった。また、学習発表会に参加した父兄等の地域住民にも非常に評判がよく、地域にもよい意味でアピールすることで、当初の目的は達成することができた。	学校や関係団体などにも非常に喜んで受け入れられており、成果が上まっていると思われる。今後は、まだ実施していない学校での出前授業に重点を置き、麻生区全体に広げていく。また、事業を区民に周知するため、鶴見川流域子育て支援コーナーを区役所内に設置する。

4 環境を守り自然と調和したまちづくり事業

1	継続	麻生区自然エネルギー活用促進事業	582,000	570,427	地域振興課	区役所屋上等に設置された太陽光発電設備を活用し、イベントや講演会等を開催するなど自然エネルギーの活用、環境問題の啓発活動を実施する。	イベントや講演会等に多くの区民が参加しており、大きな成果が上がっている。	麻生区自然エネルギー活用促進事業実行委員会	麻生区自然エネルギー活用促進事業実行委員会は、区民主体の実行委員会として積極的な活動展開があり、適性に事業を実施できた。	団体の活動がより活発化するよう支援するとともに、「CCかわさき」や地球温暖化防止の取組との連携を視野に事業を推進する。
2	継続	体験農業～親子で米づくり	1,000,000	795,851	地域振興課	米づくりの体験を通じて親子の絆を深めるとともに、日本人の主食であり、普段何気なく口にしている米について、食の大切さ、農業の尊さを実感し、併せて麻生区の地域特性である都市と農業の共生について考える機会を提供する。	前年度に比べ参加者の出席割合が高く、関心の高さを実感した。また、参加者と実行委員、農業指導者が連携して達成できた。	体験農業実行委員会	地域の特性を活かした麻生区ならではの魅力を発信する事業であり、農業や麻生区を理解するうえで大きな成果をもたらしている。	作業場所である田んぼ周辺の開発に伴い、場所の変更を迫られることとなった。今後は、場所の選定も含めて、事業内容・方法を検討していく必要がある。
3	継続	あさお花いっぱい推進事業	600,000	569,772	地域振興課	区内の美化環境の向上、地域コミュニティの向上を目的とし、川崎市美化運動実施麻生支部との協働により、公共的空間にある花壇を自主的かつ継続的に管理している団体へ花苗、培養土、プランターを提供する。	自主的かつ継続的に花壇を管理している団体へ花苗等を提供することにより、団体の活動の活性化に寄与することができた。	川崎市美化運動実施麻生支部	平成21年度は事業として2年目となり、前年度の課題であった区民への制度の広報・周知という課題をある程度解消することができた。また、花苗等を提供することにより、団体の活動の活性化に寄与することができたという点で成果はあった。	本事業は、市の緑化推進事業を保管する事業であり、他の事業との整合性や効果、活動団体のニーズ等を再度検討する必要がある。一方で、制度の利用者は増えているため、内容の調整を行いながら、事業としては継続していく。
4	継続	麻生里地・里山保全推進事業	905,000	905,000	生涯学習支援課	麻生区に残る里地・里山の魅力を未来に継承するため、「里地・里山カフェ塾」(全6回)、「かわさき子どもサミット」、「わたしのまちなかの風景写真展」、「里山フォーラムin麻生」の開催、里地・里山だよりの発行(年3回)及び他団体との交流事業を実施する。	麻生区を中心とした身近な里山の歴史や自然について、様々な手段を用いて、市民の学習の機会を提供することにより、里地・里山保全に対する関心を盛り上げて、里山フォーラム参加団体はもとより、地域の幅広い市民の参加を得ている。	里山フォーラムin麻生世話人会	麻生区内の自然環境保全に関連して活動している団体・個人が集まる機会を数多く提供しており、本事業により、地域の里地・里山保全に向けての活動交流が促進され、ふるさと麻生の文化と環境を未来に継承するための市民の意識向上に向けて、有効な中間支援組織となっている。	地域の里地・里山保全推進に向け、様々な手法により、広く一般市民の関心や環境問題に関する意識を高めてきた。今後も現状と課題を分析しながら、身近な環境の保全について、楽しく学習し、行動できるような事業を推進する。
5	新規	ヤマユリ植栽普及促進事業	390,000	389,996	地域振興課	区内で自然環境再生への問題意識が高まっている中、地域の環境美化及び地域コミュニティを推進するために、地域愛護会等と連携し、消えつつあるヤマユリの植栽活動の促進や支援を行い、植栽のノウハウの蓄積、普及を推進する。	ヤマユリ鉢植え講習会を2回開催した。また、植栽地での管理活動を地域との連携を図りながら進めている。	麻生ヤマユリ植栽普及会	かつて麻生区一帯に咲いていたと言われるヤマユリを再生することで、魅力ある区づくりに寄与できるとともに、市民活動団体が主体となり活動を行うことで、シニア活動支援にもなっている。	貴重となったヤマユリの再生を通じて、地域のコミュニティづくりの支援を行うとともに、講習会や広報を通して関心を喚起し参加者の拡大を図る。
6	新規	エコのまち麻生調査事業	1,330,000	1,299,165	企画課	身近な地域から地球温暖化対策を進めるために、麻生区内におけるエコ関連の取組事例等を調査し、「麻生区エコカルテ」を作成する。また、作成した「麻生区エコカルテ」を小学校の総合学習等に活用し、エコの意識を高めるとともに、エコを意識した生活を送るためのきっかけをつくる。	当初の予定どおり「麻生区エコカルテ」を作成することができた。また、区内の小中学校の校長会において「麻生区エコカルテ」の説明を行い、総合学習等に活用してもらうよう配布した。	(株)社会空間研究所 (有)協立印刷社	区民会議の取組を受けて事業化されたものであり、地球温暖化等の環境問題に対してエコの意識を高めることで、身近な地域からエコ活動が広がるきっかけづくりができた。	次年度からは「エコのまち麻生推進事業」として、エコ意識のさらなる高揚を図るため、「麻生区エコカルテ」の簡易版を作成して普及啓発を行う。また、リチウムイオン電池等を区役所に設置し、日常業務や出前事業で活用していく。

5 個性と魅力が輝くまちづくり事業

1	継続	麻生音楽祭2009	3,025,000	2,691,370	地域振興課	6～7月に音楽グループによるコンサートやついでを開催し、発表の機会を提供するとともに、区民や音楽家の交流(ネットワークづくり)と芸術文化の向上を図る。	区民主体の運営体制であり、区民及び団体相互の協力・連携体制がより深まっている。	麻生音楽祭実行委員会	「芸術文化のまちづくり」を推進するために核となる事業として、地域に根ざした活動をしており、麻生区の魅力を内外に発信することができる事業である。	区民主体の運営体制が軌道に乗り、滞りなく事業を遂行できた。次年度以降は事業を実施しながら課題を検討し、改善につなげていく。
2	継続	えいぶるコンサートinあさお	662,000	584,021	地域振興課	幅広い世代を対象に、障害のある人も気がねなく音楽を楽しむ機会を提供することにより、「しんゆり・芸術のまち」「音楽の街あさお」の推進を図る。また、障害の有無にかかわらず、誰もが参加できるコンサートとして、音楽を通じて障害者、健常者の分け隔てのない交流の場を提供する。	障害者等約250人が参加した。今年度から田園調布学園大学の福祉マインド実践講座の学生が実行委員会から参加し、企画運営に携わった。当日は学生ボランティアや地域ボランティアを中心に地域に根付いたコンサートとなるよう取り組んだ。	えいぶるコンサート実行委員会	ノーマライゼーションの観点から健常者だけでなく障害のある人も良質な音楽を楽しむことができ、誰もが参加できる機会を提供することは必要である。今後は地域とのつながりをさらに強化し、音楽を通じて障害者、健常者の分け隔てのない交流の場として地域に根付いたコンサートとしていく必要がある。	障害のある人に良質な音楽を楽しむ場を提供し、地域の大学と連携を進め、地域のボランティアスタッフ等が参加することにより、地域と障害者との交流を図った。本事業は21年度で終了し、障害者関係の分野だけでなく、地域に開かれたコンサートとなるよう、平成22年度から「あさお芸術のまちコンサート事業」にて実施していく。
3	継続	あさお観光資源の魅力紹介事業	400,000	400,000	地域振興課	平成20年度に麻生区の魅力を紹介したホームページを開設したのを機に、麻生区の魅力を区内外に向けて発信するため、四季折々の麻生区の今昔を写した観光写真コンクールを企画、実施する。	平成19年度の観光ガイドブックの作製、平成20年度のホームページの開設に続き、観光写真コンクールを実施することで、当初の事業の目的を達成できた。	麻生観光協会	新総合計画の施策計画「観光の振興」を目指す中、ホームページによる情報発信をすることができ、また、観光協会の強化育成の観点からも有意義な事業であり、事業目的に対する成果が得られている。	平成17～19年度の3年間にわたり観光資源の発掘調査研究を行い、平成19年度には観光ガイドブックを作成した。平成20～22年度の3年間は「あさお観光資源の魅力紹介事業」として取り組む予定であり、平成20年度はホームページの作成、平成21年度は観光写真コンクールを実施した。平成22年度は観光写真コンクールの写真の有効利用を図ることで、ホームページの更なる充実を図る。
4	継続	あさおスポーツフェスティバル	800,000	628,252	地域振興課	地域で区民が自主的に運営するスポーツ大会を支援するとともに、区民の健康と体力の向上、活力と躍動あるまちづくりに資することを目的とする。	地域に根づいたスポーツフェスティバルとして評価されており、地域でのスポーツの場づくり、交流の場として効果をあげている。	あさおスポーツフェスティバル実行委員会	小学生から高齢者の大会まで幅広い年齢層のスポーツ大会を支援し、多くの区民の参加を得ている。	個々の大会の実情に合わせた支援を実施し、より多くの区民の参加が得られるように工夫していく必要がある。

No.	新規・継続	事業名	予算額(円)	決算額(円)	所管課	事業目的及び内容	事業報告	実施主体・委託先	総合評価	今後の方向性
5	継続	KAWASAKIしんゆり映画祭野外上映会	900,000	900,000	地域振興課	市民・子ども局市民文化室が実施する「しんゆり映画祭」の周知と、「しんゆり・芸術のまち」の推進の一環として野外上映会を開催する。	毎年家族での参加が多く充実した事業であるが、「しんゆり映画祭」本祭前の事業であることから、本事業の効果的な広報の方法について検討が必要である。	KAWASAKIしんゆり映画祭実行委員会	麻生区の魅力である「しんゆり・芸術のまち」を内外に発信する事業として効果的である。	地域の夏のイベントとして定着し、多くの区民が参加して親子のふれあいの場にもなっている。親子が楽しめる作品の上映と集客の向上を目指すとともに、区の魅力を内外に発信していく。
6	継続	麻生区中学校合同音楽会 かなでようあさおの響き	600,000	410,080	地域振興課	区内市立中学8校の生徒による音楽活動の成果を発表し、PTAや地域住民と共に音楽を楽しむ場を提供するとともに、合同演奏や音楽会運営を通じて、各校の生徒の連携と交流を深める。また、「音楽のまち・かわさき」事業に参画し「音楽の街・あさお」のまちづくりに寄与する。	合同演奏や音楽会運営を通じて各学校の生徒の連携と交流を深められた。また、各学校の生徒による音楽活動の成果を発表することで、PTAや地域住民へ音楽を楽しむ場の提供ができた。	「かなでよう あさおの響き」実行委員会	各中学校の生徒による音楽活動の集大成として、日ごろの成果をPTAや地域住民へ披露し、音楽を楽しむ場として有意義な事業であるが、麻生音楽祭事業と重複する部分が多いため、事業の統合に向けて調整を行った。21年度は麻生音楽祭と連携して開催し、22年度からは麻生音楽祭事業へ統合する。	各中学校の生徒による音楽活動の集大成として、日ごろの成果をPTAや地域住民へ披露し、音楽を楽しむ場として有意義な事業であるが、麻生音楽祭事業と重複する部分が多いため、事業の統合に向けて調整を行った。21年度は麻生音楽祭と連携して開催し、22年度からは麻生音楽祭事業へ統合する。
7	継続	ふるさとあさお再発見事業	300,000	294,664	地域振興課	区民から愛され、親しまれる「ふるさと」づくりを目指し、伝統・伝承文化などを区民に広く紹介することで、地域に伝わる財産を風化させずに後世に継承していく。また、区民と協働し、食育文化を通じて麻生区に伝わる文化を再現し、「ふるさとあさお」を提供する。	伝統・伝承文化などを区民に広く紹介し、麻生区に伝わる文化を再現し、「ふるさとあさお」を提供できた。	麻生区文化協会	伝統・伝承文化などを区民に広く紹介することで、これらの地域に伝わる財産を風化させず、後世に継承していくという事業目的が達成できている。	地域に伝わる財産を風化させず、後世に継承していくという観点から継続的な事業展開が必要である。
8	継続	区政・地域情報提供事業	2,567,000	2,588,250(合計)	総務課 企画課	以下のとおり	以下のとおり	—	以下のとおり	以下のとおり
8-1	継続	麻生区統計白書作成		1,890,000	総務課	平成16年度からの継続事業として、各種統計データの収集・分析から明らかになった麻生区特性を冊子にまとめ、転入者や区内の学校へ幅広く配布している。平成19年度に作成した「あさお区ってどんな街？」は2年間の配布用として15,000部作成して配布した。平成21年度事業としては全面改訂し、平成22年度配布用として9,000部印刷する。	予定どおりに実施できた。	(株)横浜エヌケービー	予定どおりに実施できた。	情報提供手段としてインターネットが普及してきている中、窓口にて大量の資料にまぎれこませる形で配布している現状は費用対効果の点から疑問が残る。今後、事業を継続していきなれば、同じように協働推進事業として作成しているパンフレット類と統合するなど、より高い効果が見込まれるよう効率化を図ることが望ましい。
8-2	継続	麻生区役所ホームページ運用研修		157,500	企画課	麻生区ホームページの更新作業に当たり、区職員のホームページ作成能力の向上を図るための研修を実施する。	ホームページ作成研修を実施し、区職員のホームページ作成能力の向上を図ることができた。	富士通エフ・オー・エム(株)神奈川支店 横浜営業所	職員の能力向上により、区ホームページの迅速な更新や充実を図ることができたため、引き続き必要な事業である。	情報の発信源としてホームページの役割は高まっており、本事業を通じて職員的能力向上を図り、区ホームページの迅速な更新及び充実に取り組みが必要であることから、今後も継続する。
8-3	継続	麻生区役所ホームページ更新事業		47,250	企画課	麻生区ホームページの更新作業に当たり、専門的な技術が必要なコンテンツ等の作成、組織再編に伴うフロア図の変更や区役所周辺地図の更新を行い、ホームページの充実を図る。	トップページに配置するバナーの作成や区役所周辺地図の更新などを迅速に行うことができた。	(株)ウィルビー・マーケット	区ホームページの更新作業については、区民ニーズの多様化から様々なコンテンツを作成する必要があり、専門的な技術を有する事業者の協力が不可欠であることから、今後も継続していく。	区役所の情報を迅速かつ多くの人に広報する手段として、ホームページは重要な位置づけにある。今後も掲載情報を充実させるとともに、高齢者や障害者等にも配慮したページを作成していく必要があることから、現状どおり継続していく。
8-4	新規	麻生区役所ホームページ庁舎案内図作成		493,500	企画課	区役所庁舎の構造上、階数を間違える来庁者が多いという問題があったため、各課の職員で構成される広報広聴推進プロジェクトにおいて、区ホームページに掲載している平面的な案内図の見直しを行い、より分かりやすい立体的な案内図に変更する。	駅から庁舎までの案内図と庁舎内の全ての階を立体的に示した案内図を作成した。また、分岐点となるポイントには写真も配置した。	企画課 光和サービス(株)	庁舎案内の問題を解消し、区民サービスの向上を図るとともに、区ホームページの充実にもつながる事業である。	案内図が完成したため本事業は終了する。なお、今後の更新は「麻生区役所ホームページ更新事業」で対応し、一層の充実を図る。
9	継続	イメージアップ推進事業	1,120,000	1,031,500(合計)	企画課 地域振興課	以下のとおり	以下のとおり	—	以下のとおり	以下のとおり
9-1	継続	懸垂幕作成業務		31,500	地域振興課	麻生区のイメージアップを図るため、「アルテリッカ・しんゆり」の開催やスポーツ・文化活動などの全国大会出場等を応援する懸垂幕を区役所壁面に掲出し、広く地域住民にPRする。	「アルテリッカ・しんゆり」の開催をPRする懸垂幕を掲出した。掲載内容「2010 4/24～5/9アルテリッカ・しんゆり開催」	地域振興課 (有)角忠旗店	「アルテリッカ・しんゆり」の開催及び「しんゆり・芸術のまち」を広く地域住民に周知することができた。	「アルテリッカ・しんゆり」の開催をPRする懸垂幕を5月9日まで掲出した。平成21年度は対象となる学校がなかったが、引き続きスポーツ・文化活動において、全国的大会等に出場した学校について懸垂幕の掲出を行い、広く地域住民に広報していく。
9-2	継続	新百合ヶ丘駅周辺イルミネーションイベント支援事業		1,000,000	企画課	「しんゆり」をさらに魅力ある街とするための取組として、公民協働によるイルミネーションイベントの開催が企画され、実行委員会が組織された。多数の地域企業、商店街、団体等の協賛や協力を得て実施されており、このイベントを通じて築かれる地域の良好なネットワークは、「芸術を通じたまちづくり」や「活力あるまちづくり」の推進に寄与するものであるため、区も共催することとして応分の負担をする。	イルミネーションの点灯期間中、オープニングイベントや芸術関連イベント等が多く開催され、公民協働による「芸術を通じたまちづくり」や「活力あるまちづくり」の推進に一定の効果があった。	Kirara@アートしんゆり2009実行委員	地域参加・地域主体によるイベントが多く開催され、公民協働による「芸術を通じたまちづくり」や「活力あるまちづくり」の推進に一定の効果があった。また、この取組を通じて地域の良好な関係も構築されている。	地域参加・地域主体によるイベントや芸術関連、学生の企画によるイベント等を開催し、「芸術を通じたまちづくり」や「活力あるまちづくり」のより一層の推進を図っていく。
10	継続	地域資源を活用したまちづくり推進事業	900,000	819,288	企画課	麻生区の特徴である「農」、地域の資源である「4大学」や「日本映画学校」、「アートセンター」、「川崎フロンターレ」、「マイコンシティ」などと連携し、これらを活かした個性あるまちづくりに取り組む。	21年度は、特定非営利活動法人鶴見川流域ネットワーク、「しんゆり・芸術のまちづくり」フォーラム、JAセレサ川崎農業共同組合と連携して事業を行った。区民が広く参加することができるイベントを行ったことで、区のもつ特色と魅力をアピールすることができた。	JAセレサ川崎農業共同組合ほか	連携先の決定や事業内容の協議などに多大な労力を要するが、申し込みが多かったため抽選で参加者を決定した事業があるなど好評であった事から、十分な成果を上げることができた。	限られた地域資源の中で、新たな事業の企画、連携先を模索していく必要がある。また、区民ニーズや区役所の課題を反映させた事業を展開していく。
11	新規	あさお芸術のまちコンサート事業	2,193,000	2,149,589	地域振興課	区民が気軽に音楽を楽しむことができる機会を設けることで、区のイメージアップを図るとともに、音楽家・音楽愛好家のネットワークづくりを促進する。定例コンサート：年6回区内ホール等を使用して開催、トワイライトミュージック：夕方随時、区役所2階ロビーで開催、トワイライトミュージック出演者による新春コンサート：平成22年1月に開催	地域に根ざした活動として定着し、区民に大変親しまれている。一回のコンサートにつき平均して200人強の来場者(来庁者)があるほか、毎回来場する根強いファンもおり、区民に期待されるコンサートとなっている。1月7日新春コンサートでは、麻生古風七草粥の会との協力により900人を越える来場者を得た。開催回数を70回以上重ねてきたことにより、応募・出演したことがある音楽家・音楽愛好家のネットワークづくりにも取り組み、自主的な拡充を図っている。ネットワークには約70組が登録	あさお芸術のまちコンサート実行委員会	定例コンサート以外にも、区役所で夕方に開催するトワイライトミュージックやネットワーク登録者の活用事業も取り組み始め、様々な形式により、いつでもどこでも誰でも音楽を楽しめる機会の提供に努めている。区役所を拠点とした形式から展開を図り、音楽関連施設を利用することにより、事業を拡充していく方向へと進んでいる。	22年度より「バリアフリーコンサート」や「麻生音楽家ネットワーク登録者派遣」等の新規事業が始まるため、次年度以降は回数や内容を精査していく必要がある。他事業との協力・連携を一層固り効果的な情報発信をしていく。地域の音楽家・音楽愛好家をとともにより良いコンサートづくりに努める。

6 参加と協働による市民自治のまちづくり事業

1	継続	麻生区まちづくり推進事業	4,410,000	3,826,837	地域振興課	「人、組織、地域のネットワークづくり」をテーマとして、地域の様々な団体のネットワークづくりを構築しながら、区の課題解決に市民主体で取り組んでいく。事業実施主体の「麻生まちづくり市民の会」は、平成15年に麻生区唯一の市民による中間支援組織として発足し、1期3年間のサイクルで活動を続け、平成21年度からは第3期の活動となる。	「エコプロジェクト」では環境家計簿を通じて地域のつながりづくりを、「達人プロジェクト」では講座を通じて市民活動の活性化を、「広報プロジェクト」では広報紙を通じて麻生の魅力を発信するなど、ネットワークを拡大することができた。	麻生まちづくり市民の会	今年度も具体的な企画活動を活発に行った。また、麻生市民交流館やまゆりとの協力体制の枠組みができたことは評価できる。	第3期の2年目となる次年度は、事業の方向性を確認しながら、第3期終了に向けての課題整理を行う。
2	継続	麻生市民活動支援施設市民活動支援事業	1,488,000	1,487,580	地域振興課	麻生区市民活動支援施設「麻生市民交流館やまゆり」において、市民活動相談窓口の運営や情報提供、市民活動団体のネットワークづくりなど市民活動支援全般に関わる業務を行う。また、川崎市自治基本条例、区行政改革担当の実行計画書等に基づき、区民が自主的に行う社会貢献活動を支援し、地域での区民の手によるまちづくり活動の推進を目的として、施設に印刷機やパソコン等の機器を整備する。	利用登録団体は順調に増加しており、会議室も80%を越える高い稼働率を示した。また、各種協働推進事業においても多数の参加があり、リニューアルした「やまゆりニュース」の発行など広報にも力を入れた。さらに、市民活動相談窓口業務においては麻生まちづくり市民の会と連携するなど、市民活動支援施設として一定の成果をあげることができた。	NPO法人あさお市民活動サポートセンター	事業目的に対して一定の成果があがっており評価できる。	来年度についても、引き続き地域活動への参加促進のための情報提供、市民活動団体のネットワーク構築など市民活動支援全般に関わる業務を行う。
3	継続	外国人市民地域活動参加推進事業	1,301,000	725,056	地域振興課	多様な外国人市民が積極的、主体的に地域のまちづくりに参加し、区政に意見を反映できるよう課題の整理やその解決手法を検討し実践活動に取り組んでいく。●麻生外国人医療情報ヘルプライン事業：外国人に対する医療情報の無料電話相談業務、医療関係の広報紙やチラシ等の翻訳業務、講演会やイベントの開催により、ヘルプラインの活動を広く周知させていく広報活動の推進。●外国籍等の子ども学習支援事業：外国籍及び外国につながる児童・生徒たちの学習を地域で支援する。	①外国人に対する医療情報の電話での無料相談の実施。②外国人のための普通救命講習会の開催。③外国籍等子ども支援事業では、学校における支援9校15名のうち、4校8名の支援者が派遣の成果などにより支援終了した。	麻生外国人医療情報ヘルプラインあさお多文化サポートネットひまわり	それぞれの事業に一定の成果は得られたものの、他団体への広がりや外国人市民が積極的、主体的に地域のまちづくりに参加していく仕組みづくりについては今後の課題である。	麻生外国人医療情報ヘルプライン事業については終了するが、引き続き運営団体が自主的に運営を行っていく。外国籍等の子ども学習支援事業は、円滑な事業運営のみならず運営団体の育成を視野に、関係機関との連携を進める。
4	継続	区役所窓口等サービス充実改善事業	786,000	873,578(合計)	区民課 資産税課	以下のとおり	以下のとおり	—	以下のとおり	以下のとおり

No.	新規・継続	事業名	予算額(円)	決算額(円)	所管課	事業目的及び内容	事業報告	実施主体・委託先	総合評価	今後の方向性
4-1	継続	区民課窓口案内業務		521,620	区民課	窓口が大変混雑する3月から5月の連休明けにかけて「窓口案内係」を2名配置し、届出に必要な書類、交付申請の記載方法等の説明を行うことで、手続きをスムーズに案内するとともに、迅速な事務処理と待ち時間の短縮を図る。	窓口案内係が効率的に窓口の振り分け誘導を行い、迅速な対応と各種届出書の記載方法を説明することで、来庁者を長時間待たせることなく手続きがスムーズに進み、受付窓口を充実させることができた。また、任用形態を委託から臨時職員に見直すことで経費削減に繋がった。	区民課	窓口の混雑解消、待ち時間の短縮は市民サービスの向上とイメージアップに直結する事業である。本事業によって、その目的に対する効果が上がっている。	来庁者に適切な「窓口案内」を行い、受付対応業務の振り分けを行うことで、混雑解消と待ち時間の短縮を図ることができるため、今後も継続する必要がある。
4-2	新規	資産税課窓口カウンター改善		216,508	資産税課	資産税課で実行可能なバリアフリー対応策として、高齢者や車椅子利用者等への配慮を目的とし、窓口カウンターのカウンター面の高さを下げ、座りながら対面で応対できる窓口カウンターを整備することを目的とする。	資産税課においては高齢者、車椅子利用者、障害者等にとって、従前よりも格段に利用しやすい窓口環境が創出できた。繁忙期には隣の市民税課も活用できているため、当初の期待以上の効果が得られた。	資産税課	最善の方法で窓口カウンターが改善できた。特に、コストの面では、既存カウンターの再利用を図った関係で、発生材の廃棄処分量も大幅に節減できた。	当初掲げた事業目的が達成されたため、事業を終了する。
4-3	新規	区民課待合フロア改善		135,450	区民課	老朽化した待合フロアの長椅子の買い替えにより窓口環境の整備を図る。	窓口環境の整備を図ることができた。	区民課	窓口環境の整備を図ることができた。	当初の目的を達成したため終了する。
5	継続	あいさつが交し合える地域づくり事業	2,240,000	2,205,000	企画課	「心が響きあう地域づくり」を推進するため、区内において都市型コミュニティの成功事例、先進事例等を調査し、事例集にまとめるとともに、その事例集を活用することで、既存活動の活性化や新たな活動団体の結成などを区全域へと広げていくことを目的とする。	平成20年度に区内の町内会・自治会、市民活動団体に対して実施した調査結果に基づき、その中から都市型コミュニティの成功事例、先進事例を選び、事例集に取りまとめた。事例集は町内会・自治会等に配布し、併せて区町会連合会で実施する研修会等でも活用する。	(株)社会空間研究所	区民会議の取組を受けて事業化されたものであり、区の重点政策に位置づけられている。作成された事例集は、今後の地域コミュニティづくりに役立つ資料として評価できる。	当初から2か年の事業として計画されているため、予算を伴う事業としては21年度をもって終了する。今後は、作成された事例集を地域に広めて活用してもらうように働きかけていく。
6	継続	麻生区地域コミュニティ活動支援事業	932,000	726,321	地域振興課	「麻生市民交流館やまゆり」を通じて、市民活動団体等による地域の新たなコミュニティづくりにつながる事業を支援し、地域におけるコミュニティづくりを活性化させていく。	区における市民活動支援の拠点として位置づけている「麻生市民交流館やまゆり」の中間支援機能の強化が図れた。また、新たな地域コミュニティづくりにつながる市民活動団体等の活動を支援し、一定の成果をあげることができた。	NPO法人あさお市民活動サポートセンター	市民活動団体等の活動を支援することで、地域におけるコミュニティづくりの活性化に寄与することができた。	来年度についても、市民の主体的な参画によって運営されている「麻生市民交流館やまゆり」に本事業の事務機能を置き、市民活動を推進していく。
7	新規	麻生まちづくり学校事業	300,000	299,992	地域振興課	麻生区のまちづくりを進めるために必要な知識の取得や情報の提供、視察調査を行い、地域主体のまちづくりを推進することを目的として講座の開催等を実施する。	講座の最終回にワークショップを行ったことにより、まちづくりの具体的な問題についての現状把握だけでなく、解決に向けての考え方を学ぶ機会を提供することができた。	麻生まちづくり学校運営委員会	地域主体のまちづくり推進の支援として一定の成果をあげることができた。	来年度については、参加者が事業運営に関わるなど、学習だけで終わることのないような体制づくりを目指す。
8	新規	麻生区町会連合会広報促進・IT活用事業	1,074,000	925,900	地域振興課	町内会・自治会への加入者を増やすことを目的に、麻生区町会連合会のホームページを立ち上げる。	不特定多数の区民が、地域の町内会・自治会活動についての情報を簡単に入手できる環境を整えたという点では成果があった。	地域振興課	町内会・自治会への加入促進に向けてホームページを立ち上げたことは、区民への情報提供という面で効果がある。今後はホームページの周知や内容の検討が課題となる。	本事業は目的を達成したため終了し、今後は麻生区町会連合会がホームページの管理運営を行う。
9	継続	町内会事業提案制度	1,000,000	0	地域振興課	地域住民のつながり、地域の課題解決力の再生を目指して、地域の担い手である町内会・自治会が行う事業を募集し、選定された事業を提案した町内会・自治会に委託して実施する。	—	地域振興課	平成21年度は事業の提案がなかったが、地域では課題が多岐にわたっており、その解決に向けて町内会・自治会、地域住民が取り組んでいく本事業は有益である。	町内会の実情に見合った支援を実施し、より多くの町内会が事業提案できるようにしていく。
10	継続	麻生区地域功労賞制度	116,000	25,971	地域振興課	麻生区の地域の活性化に貢献しているが、各種団体の表彰の対象にはならない個人(団体)を麻生区長名で表彰することで、区民の地域活動への関心を高める。	区民が多く集まる「あさお区民まつり」で表彰式を行うことで、区民の地域活動への関心を高める効果をあげている。	地域振興課	区民が多く集まる「あさお区民まつり」で表彰式を行うことで、区民の地域活動への関心を高める効果をあげている。	表彰制度の質を落とさないように選考には十分注意していく必要がある。

7 その他経費

1	継続	緊急対応事業	7,198,000	0	企画課	区内の緊急課題、区民要望等に対応した事業を実施する。	—	企画課	区内の緊急課題、区民要望等に対応するため、引き続き予算を確保する。	平成21年度は緊急に対応を必要とする事業はなかった。今後も区内の緊急課題、区民要望等に対応するために事業を継続する。
2	継続	事務費等共通経費	1,038,000	778,789	企画課 地域振興課	協働推進事業の実施に必要な事務用品等の購入、郵便料、複写品費等	事業運営に際し、円滑な事務を推進することができた。	企画課 地域振興課	協働推進事業の事務処理を円滑に実施するために必要である。	協働推進事業を円滑に実施するために、今後も事務費の適切な執行に努め、更なる区民サービスの向上を図っていく。

合 計	55,000,000	41,411,717
-----	------------	------------